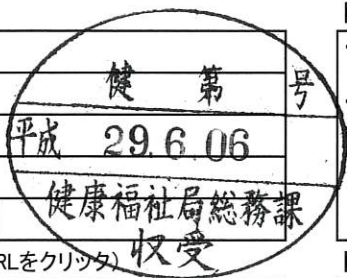


1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700116		
法人名	社会福祉法人 愛知育児院		
事業所名	認知症グループホームみなみやま Aグループ		
所在地	愛知県名古屋市中区南山西町5番地		
自己評価作成日	平成29年1月19日	評価結果市町村受理日	



【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

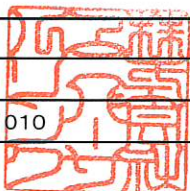
<p>・日中は、全員の利用者様にトイレでの排泄を勧めています。 ※リハビリパンツを使用せずに、要介護5の方も布パンツで過ごして頂いています。 ・毎月の壁飾りを利用者様と前月から少しずつ作成し、季節感を味わって頂いています。 誕生日会は、同じ敷地内にある保育園の園児さんと祝っています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市守山区森孝3-1010
訪問調査日	平成29年2月6日



【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>名古屋市東部山の手、所謂「高級住宅街」に立地し、3万3000坪を超える敷地内に児童養護施設・保育園・特養・ショートステイ・デイサービス・ケアマネステーションを併設する総合介護事業所である。ホームでは入居者の自立を強く意識し、日中は個々の排泄リズム・水分摂取量から適時の声掛けにより、ほぼ全員リハビリではなく、トイレで排泄できるようになった。またADL低下・入居者高齢化のため、ここ数年包丁を握る入居者が見られなくなったグループホームの中で、このホームでは、自分の部屋を掃除し、包丁を手調理を手伝う人もある。訪問時、陽当たりのよいウッドデッキで洗濯物を干す職員らしき人に、「風が強くてよく洗濯物が乾きますね」と声をかけたら、後で入居者だと知らされ、何年振りかで、日常家事をこなす入居者の姿を見た。その両ユニットの共用スペースであるウッドデッキでは、夏は花火を楽しんだり、秋はさんまを焼いたり、日向ぼっこなど、入居者の憩いの場所となっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700116	
法人名	社会福祉法人 愛知育児院	
事業所名	認知症グループホームみなみやま Bグループ	
所在地	愛知県名古屋市中区南山西区5番地	
自己評価作成日	平成29年1月19日	評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者様の能力や状態に応じて、洗濯・掃除・食事などの家事に関わって頂きながら生活してもらっています。
- ・季節を感じてもらう為に、季節に応じた行事(初詣・花見・七夕会・夏祭り・運動会など)を取り入れています。
- ・利用者様の健康管理や医療面で不安なく過ごして頂けるように、主治医と連携を取りながら介護を行っています。

健 第 号
平成 29.6.06
健康福祉局総務課 収受

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク	
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市中区森孝3-1010	
訪問調査日	平成29年1月24日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念並びに事業方針を定め書面化し、職員会議や委員会活動等を通して、共有し具体化している。	法人理念である「…共に苦しみ、共に喜ぶ、同朋相互扶助の日々を信条とし、『いのちの輝き』を追求する…」をホーム理念としている。管理者は「施設全体で、0歳から終焉まで、そのステージ毎にその場を提供すること。グループホームでは、その日その日が輝ける毎日とすること」がその具体例だと語る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への情報発信の場となる様に学習会(認知症サポーター養成講座等)を地域の方たちの開催している。また、利用者が地域の行事等に参加して地域での生活が送れるように心がけている。	地域のこども110番を引き受け、小学校の運動会などには家族と共に入居者が観覧している。介護研修会を、定期的に家族・地域向けに、施設内の200人程収容できるホールで開催しており、今年は医師等を講師に招き、ターミナルケアについて学んだ。災害時には『地域の福祉避難所』として市に指定され、地域住民用の毛布等備蓄も現在準備中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や一般の人たちの見学会の受け入れを積極的に行うと共に、定期的に介護の研修会を家族や地域の方へ案内するとともに介護の情報交換会を検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で行事・事故・苦情等の報告を行いながら、委員の意見を取り入れながら、業務改善や生活の質の向上に取り組んでいる。	管理者・計画作成担当者、職員・家族・施設内他部署の職員・地域包括職員をメンバーとし、今年も6回の開催が確認された。行事・外出の報告だけでなく、事故・ヒヤリハットまでがこと細かく発表し、それに至る経過・原因探究・改善策までが逐一包み隠さず報告され、家族の信頼につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	該当事業所の職員や系列事業所の職員が包括支援センターの活動や区や医師会の会合に積極的に参加し意見を取り入れている。	施設全体を統括して、行政との連携が図られている。地域包括センターは運営推進会議に必ず出席するほど緊密に連携し、地域包括センターから『認知症サポーター養成講座』を依頼され、定期的に近所の大型スーパーなどで講師を派遣して開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針により、原則行っていない。拘束をしない方策を検討するために、毎月身体拘束委員会にて検証・対策を講じている。	重要事項説明書にも『拘束排除宣言』が明記され、実際、開設以来拘束の例はない。入口は無施錠で、各ユニット間の移動も自由である。睡眠剤が多いため、ほぼ一日中居眠りする入居者について、「減らしてはどうか」との提案があり、医師の指示で減らし、通常の時間に起床でき、ドラッグロックを防いだ例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	開設時研修により、全職員に虐待防止について学ぶ機会を設け、身体拘束廃止委員会の活動を通し、不適切な対応がないように検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・計画作成担当者・ケアマネの契約時の学習会で成年後見制度について学習した。関係機関との協力が必要であれば包括とも連携講義している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分理解して頂けるように心がけている。また、より丁寧に説明すべき事項については別紙説明文を用意し、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や名古屋市介護事業者ユーザー評価事業等により、常に意見を聞きながら改善する体制にしている。	家族会は年一回の法人の『お祭り』の後、グループホームスタッフと家族で行われている。ホーム便りは毎月、小規模多機能と共同で発行し、届けられている。「訪問する前に、不足・用意する物品を事前に知らせてほしい」との家族の声にこたえるため、最善策を考慮中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・各種委員会活動にて意見聴取し改善する取組を行っている。	毎月の職員会議・各種委員会で職員の意見を聴取している。日常のミーティングでも様々な提案がされているが、個々の入居者の変化等は、二人一組の「ケース担当者」間で相談しユニットリーダーの助言により解決、または管理者の承認を受けて実現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	サービス向上委員会や衛生委員会等の活動を等して職場環境の改善に取り組むと共に労働条件の改善については、常に法律に合わせた改正や独自の改正を就業規則に取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には積極的に参加し、内部研修は通年を等して、経験年・職種に合わせた内容で行っている。また、委員会活動も職員教育の一環として行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の連絡会や名刺交換会に積極的に参加させ、情報交換の場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケース担当制により、より信頼関係を築ける体制にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケース担当制により、より信頼関係を築ける体制にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケース担当を二人で行い、聴取して意見が反映できるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中(施設の中で)その方が出来る事を職員と共にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、施設での生活を手紙にて伝え、情報を共有し一緒に支援できるような働きかけをしている。家族の支援が必要な場合は、電話連絡を直接行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の生活歴等を情報収集する事を心がけ、外出支援や人との関わりの場面の提供を心がけている。	12月には恒例行事として、家族等への年賀状に取り組んだ。宛先・名前を失念している入居者も居たが、職員のサポートで無事書き終えた。家族希望で一時帰宅支援を行っているが、階段を上る構造になっているため、職員が自宅まで送り届け、本人と家族に安心していただけるようサポートした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握したうえで、職員が仲介になって関わる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	再利用制度を設けながら、定期的に連絡しながら状況確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症により、意思を伝えられない方に対して、普段からの会話の中でニーズを把握するように努めている。毎月実施しているモニタリングにより、思いや意向の把握に努めている。	「意思を伝えられない人にも普段の会話でニーズを把握している」と管理者は語り、ユニットリーダーからは、「特養入居者からビーズ手芸を教わったり、裁縫が好きだった人には、ミシンや手縫いで全入居者のランチョンマットを手作りした人もある」と聴取できた。実際昼食時に確認したが、縫い目も美しく、立派なランチョンマットであった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを活用しながら本人・家族からの情報を把握するように努めている。また、会話で出た内容を家族に確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や温度板を活用しながら、利用者全体の生活全般を把握する仕組みにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース担当によるモニタリングを、計画作成担当者や他職員と適宜カンファレンスにて検討し、反映させている。	プランは3か月をめどに見直している。毎月のモニタリングと状態に応じてカンファレンスを開催しプラン見直しにつなげている。日常の気づきは2名のケース担当者で討議され、ユニットリーダーの助言の下、介護手技の変更・プラン見直しにつなげている。目標達成計画でカンファレンスの家族参加を掲げたが、土日開催の声が多く人員配置上応えられていない	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や温度板を活用しながら、申し送り等で伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の申し送りで検討しているのと、ケース記録等で結果を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内に隣接している、他事業者(特養・保育園・養護施設)との交流により、豊かな暮らしを楽しめるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を確認しながら受診の調整をするとともに、かかりつけ医の診察結果を随時報告している。	協力医療機関が内科、歯科、眼科等あり、定期的な往診がある。受診時はスタッフが付き添うが、協力、連携医療機関以外は家族が付き添っている。医療処置が必要な場合は協力病院を紹介している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に連絡情報の共有を行っている。また、記録も統一化し情報のスムーズな共有化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	窓口を統一化し、定期的に情報を共有化できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に対する方針を伝え、家族・関係機関には対応について協議している。	重度の医療処置が必要な場合は入院してもらっている。ターミナルケアの勉強会を開催したり、マニュアルの作成、喀痰吸引研修の受講にスタッフを派遣している。協力医は24時間対応可能でホームには看護師も常勤している。去年初めての看取りを経験した。家族、医師、スタッフとの話し合いを重ね準備をして行うことができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時研修や施設内研修で定期的に学習している。また、緊急時の対応のルールや利用者も個別対応も周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時訓練実施していると共に関連事業所との連携した訓練も行っている。	地域の災害時の避難所となっている。備蓄品は食糧その他で水や電気は自家で賄える用準備中である。入居者も参加する避難訓練の他、消火器・消火栓の使用方法、非常放送の訓練なども定期的実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な対応がない様にサービス向上委員会等で協議している。標語にて意識の啓発を行っている。	毎朝の始業前に法人の理念を確認している。言葉遣いやケア時に不適切な事はなかったか、入居者個々の成育歴や想いを把握しその人にとってどのように対応する事が適切なケアに繋がるのかスタッフ間で検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	モニタリングや申し送りの中で集約しながら、利用者に対しての関わり方の統一化を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の送りの中で確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は好みに合わせて本人が選択するように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が出来る事を把握し、手伝って頂いている。	外部の業者に委託して調理済みの食品を搬入している。常食・ミキサー・ソフト・ゼリー食まで対応している。ホームでは温めて配膳する。月に二回程行事として、おやつや昼食を手作りしている。介護度が軽い入居者には野菜切りや後片付けを手伝ってもらう事もある。食事前には膝下体操をし、食事中はテレビを消して食事に集中し誤嚥予防をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、日々の状態確認を行っている。その人の趣向や機能に応じて変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な歯科衛生士の口腔ケアと指導により職員が実施している。(仕上げ磨きや声掛け等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄記録を使用し、その方の排泄リズムを理解し、声掛けのタイミング等を共有している。排泄用品も状態に合わせて選定している。日中は紙パンツを出来るだけ使用しないように心がけている。	昼間は個人、個人の体調や、水分摂取量、排泄パターンを把握し適時声掛け誘導している。夜間は声かけやコールが有ればトイレ誘導する。便秘傾向の入居者が多く、水分摂取や食物、運動を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖やオリゴファイバーを使用しながら、服薬に頼らない自然な排便が出来る様に心がけている。散歩等の歩行の機会を意図的に設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴記録により、入浴の間隔を把握し、職員からの声掛けを行っている。また、希望があれば対応している。	2～3日に1回は入浴していただけるよう支援しており、軽度の介助の入居者には1日おきに入っている。同性介助にはこだわらないが入居者の希望や体調で柔軟に対応している。一般浴槽であるが、機械浴が必要な場合は同法人内の他施設で対応できる。季節の行事湯もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からも説明を受け、提携先からの薬局からも服薬指導を受けている。また、薬局より薬情を預かり確認対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ニーズを把握し、日々の生活やレク等に生かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ニーズを把握し、外出している。	外泊や帰宅希望の入居者にはスタッフが付き添って送迎している事もある。ホームの行事で遠出する場合、入居した後も家族との楽しい時間を過ごしていただけるように、ご協力をお願いし同行していただいている。喫茶店や散歩等の日常の外出はグループに分けて付き添いの対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を個別に施設管理し、外出時等に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用希望があれば対応している。職員と共に家族あての年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者が住み慣れた環境作りに取り組んでいる。	建物の二階フロアーを2ユニットで占めている。ホールはかなり広く、両ユニットの入居者が一緒に行事を行うことができる。ソファが2脚、畳敷きのコーナーがあり、各々の好みの場所で過ごしている。壁には入居者の作品が貼られている。ホールから板張りのベランダに出る事ができ、季節の良い時はお茶をしたり鉢植えの手入れをする事もできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブル以外に別のソファ等を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	高齢者に居心地よく過ごして頂けるように建具等を和風に行っている。また、使い慣れた家具等を自宅から持って来て頂いている。	六畳程のフローリングの居室はエアコン、ベットはホームの装備で寝具やタンス、机等は好みに合わせて持ち込んでいる。窓にはカーテンの代わりに障子が備え付けられている。居室入ロドアには部屋番号の代わりにユニット毎に植物と鳥の名前が表示されている。その他に入居者の名前も表示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具を活用しながら出来る事を安全に行えるようにしている。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2390700116
事業所名	認知症グループホームみなみやま



【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	地域のこども110番を引き受け、小学校の運動会などには家族と共に入居者が観覧している。介護研修会を、定期的に家族・地域向けに、施設内の200人程収容できるホールで開催しており、今年は医師等を講師に招き、ターミナルケアについて学んだ。災害時には『地域の福祉避難所』として市に指定され、地域住民用の毛布等備蓄も現在準備中である。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	管理者・計画作成担当者。職員・家族・施設内他部署の職員・地域包括職員をメンバーとし、今年も6回の開催が確認された。特に年一回の参加で可とされる地域包括職員は6回すべてに参加していた。行事・外出の報告だけでなく、事故・ヒヤリハットまでがこと細かく発表し、それに至る経過・原因探究・改善策までが逐一包み隠さず報告され、家族の信頼につながっている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	施設全体を統括して、行政との連携が図られている。地域包括センターは運営推進会議に必ず出席するほど緊密に連携し、地域包括センターから『認知症サポーター養成講座』を依頼され、定期的に近所の大型スーパーなどで講師を派遣して開催している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	家族会は年一回の法人の『お祭り』の後、グループホームスタッフと家族で行われている。ホーム便りは毎月、小規模多機能と共同で発行し、届けられている。「訪問する前に、不足・用意する物品を事前に知らせてほしい」との家族の声にこたえるため、最善策を考慮中である。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況(外部評価)が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	認 事 項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示) ① 家族会を定期的(年2回以上)に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的(年2回以上)に発行されている。

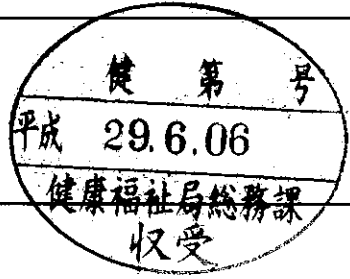
【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
総合評価	—	—	—	×	×	○	○	○			

目標達成計画

作成日: 平成 29年 4月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	ご家族からの聞き取りや普段の会話の中から、直接ご本人からニーズの把握は出来ているが、訴えの多いご利用者が優先になりがちになり、重度の方に関しての趣向面での意向が反映出来ていないように感じる。	重度の方の趣向面でのニーズを達成する。	体調面や気候などを考慮し、日程調整を行う。また、頻度についても事前に予定に落とし込み、ニーズが達成出来るようにする。	3ヶ月
2	26	定期的カンファレンスを行っているが、業務都合上で平日のみの開催になっている為、働いておられるご家族に参加して頂く機会が少なくなっている。	定期カンファレンスにご家族も参加して頂く。	平日のみでは無く、出来るだけ参加して頂けるように休日にも実施する。また、事前にご家族の予定の確認を行い調整する。足を運んで頂いた際は、カンファレンスだけでは無く、施設で提供している食事と一緒に召し上がって頂き、来所時の楽しみを持って頂く。	6ヶ月
3					ヶ月
4			ヶ月		
5			ヶ月		
					ヶ月
					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。